

学校の教育目標		ひろい心もち 豊かに表現できる子	
経営の重点		多様な人と「つながり」、「感謝」の心で、「笑顔」あふれる学校	
町の重点	評価の窓	評価	12月までの成果
			1月以降及び来年度以降の課題と改善策
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方(命の大切さ)についての考えを深める道徳教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級ごとに確実に道徳の時間を位置づけ、自分の普段の行動や仲間との関わりについて考えることができた。</li> <li>・ひびきあい集会では、全校で友達との関わり方について考え、多くの児童が積極的に発言し、思いを確認することができた。</li> <li>・日頃から、朝の会などを活用して、命の大切さについて考えを深められるように話題にすることができた。</li> </ul>
【人権教育】 自他の違いを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仁木小人権宣言を、全校児童の願いや思いをもとにして、児童主体で策定することができた。</li> <li>・よいことを見つけや人権週間の取組などを行い、人権感覚が高まるような実践できた。</li> <li>・縦割り掃除やなかよし活動を通じて、お互いを大切にする人間関係づくりができた。</li> </ul>
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	いじめ・不登校・自殺等の未然防止と早期発見・対応の強化SOSの出し方教育の推進と相談体制の強化	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「早期発見、いじめ見逃しゼロ」を掲げ、問題行動に対して、保護者と連携をとりながら、全職員で組織的に対応することができた。</li> <li>・SOSの出し方教育を全学級がスクールカウンセラーと連携して行うことができた。</li> <li>・児童の様子や悩みアンケートをもとに教育相談を行うことで、いじめなどの未然防止や早期発見ができた。</li> </ul>
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で地域の講師の方による出前授業や校外学習などを意図的に位置づけ、ふるさと輪之内のよさを実感することができた。</li> <li>・児童が各自の課題に対して、探究的に学んだことを地域の方や下学年に伝えることができた。</li> </ul>
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会を開き、全校研究会や学年部研究会を位置づけ、教師も児童も楽しい授業づくりをめざして授業改善に取り組んだ。</li> <li>・導入の工夫、個人追及の時間の確保、意図的・積極的な交流活動など、「分かる授業」「楽しい授業」を行うことで、自ら学ぶ意欲を向上させることができた。</li> </ul>
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した学習活動の充実(「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルについて、長期休暇前などに全校できちんと位置付けて行うことができた。</li> <li>・情報主任を中心に全職員でロイロノートの効果的な活用方法について学び、積極的に授業で活用することができた。</li> <li>・GIFU webラーニングやミライシードを活用し、個別学習の充実ができた。</li> </ul>
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTや英語専科教員のおかげで、外国に興味をもったり、コミュニケーションを楽しんだりすることができている。</li> <li>・英語に抵抗感をもっている児童も、英語で相手に伝えたいという思いをもちながら、身振り手振り、会話をすることができた。</li> </ul>
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置付け事前・事後指導の充実(キャリアパスポートの活用)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動や委員会活動・係活動などを充実させ、勤労観を養うことができた。</li> <li>・出前授業がどの学年もあり、実際に職場で働く人の話を聞いたり体験したりすることで、視野を広めることにつながった。</li> <li>・行事やステージなどの節目に成果と課題を振り返る場を位置づけ、次のステージや行事に向かうための目標を立てることができた。</li> </ul>
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実(QU検査の活用)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の5ステージごとに中心となる行事が生まれ、日常の生活とつながり指導があり、段階を踏んで児童の組織力の高まりが見られた。</li> <li>・ステージごとに学級の課題について話し合い、児童が自分たちの学級をより良いものにしようとする主体的に取り組めた。</li> <li>・QU研修で考えたことを全校で共有することで、2学期以降の学級経営に生かすことができた。</li> </ul>
【健康安全教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	体力向上のための取組自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯・口の健康づくりの取組が児童の活動として定着している。</li> <li>・いろいろなパターンの命を守る訓練を行い、児童や職員の意識を高める訓練ができた。実施後、すぐに職員での反省会を行い、指導体制を見直すことができた。</li> <li>・早い時期から「チャレンジスポーツインギョ」を活用して大縄跳びに取り組み、児童が進んで運動することができた。</li> <li>・体育の準備体操の代わりに、ACP運動(楽しみながら積極的に体を動かせる)を取り入れることで、楽しく体力を向上させることができた。</li> </ul>
【コミュニティ・スクール】 地域と一体となって特色ある学校づくりを進める。	学校運営協議会の活動、地域学校協働活動を推進し、地域とともに進める学校づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月の仁木小コミュニティフェスタを学校運営協議会(地域協働活動本部)の委員の方と協働で進めることができた。</li> <li>・仁木小コミュニティフェスタを通して、地域の活動や文化を知ることができた。また、家庭との連携をとることができ、親子で輪之内の文化について触れて学ぶことができた。</li> </ul>
【学校経営】 全教職員が協力しチーム学校として活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながり」「感謝」「笑顔」を学校の柱として、職員一人一人が意欲的に働くことができている。</li> <li>・職員室での会話が楽しく、職員間で困ったことなどをすぐに共有することができている。</li> <li>・職員の働きがいにつながる定期的な座談会を位置づけ、職員一人一人が学校運営に関わっているという意識をもつことにつながった。</li> <li>・毎月の時間外勤務について振り返りを行うことで、意識が高まり、早く帰ることができるようになってきている。</li> </ul>
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	研修主事を中心とした組織的・計画的な研修の実施	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修主事が中心となって教職員として必要な内容について研修が位置づけられ、学ぶことができた。</li> <li>・職員会後や終礼後・ICTを介するなど、工夫して行うことができた。</li> <li>・教職員同士のよさ見つけを行い、お互いのよさに気付くことができた。</li> </ul>
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会、こども園、関係機関・保護者と連携をとりながら、特別支援教育を進めることができた。</li> <li>・計画的に個別の支援計画・指導計画を作成・見直しをすることができた。</li> <li>・インクルーシブの考え方を全職員で共通理解し、一人一人の違いを理解し、認め合う環境を整えることができた。</li> <li>・特別支援学級について、全校児童がどのような学級なのか、理解する機会を設けることができた。</li> </ul>

町の重点	評価の窓	評価	1 2月までの成果	1月以降及び来年度以降の課題と改善策
【学校関係者評価】			<p>○様々な学年の子と関わる活動を考え、人との関わりやつながりを大切にしようとしているのがよい。活動をしただけで振り返りの時間を設けて、認め合えると自己有用感につながると思う。</p> <p>○出前授業で国策ポストの紹介があったと聞いた。保護者も輪之内町出身でない方が増えてきた中で、輪之内町の魅力や文化について教えていただき、故郷を学ぶ機会は大変ありがたい。</p> <p>教科書では知れないことも興味をもってくれたら嬉しい。</p> <p>○情報モラルはもちろんであるが、膨大な情報の中で情報リテラシーも学んでほしいと思う。情報の正しい選択、判断などこれから必要になるのではないかと感じる。</p> <p>○学びについては、授業が楽しい、勉強が楽しいと思うことが大切。それは、子どもたちの自己肯定感の向上にもつながる。</p>	